

さいたま神さまっぷ 2

高麗川

基本コース 約9.5km

高麗川駅 → 四本木の板石塔婆 → 薬師堂 → 熊野神社 → 稲野辺神社 → 建光寺
 → 霊巖寺 → 高麗家住宅 → 高麗神社 → 聖天院 → 野々宮神社 → 東光寺
 → あぐれっしゅ日高中央 → 正福寺 → 西光寺 → 高麗川神社 → 高麗川駅

神社を巡る観光散歩にでかけませんか



霊巖寺

真言宗箕輪山満行院霊巖寺。本尊地藏菩薩。本尊がお姿を現され、田植をされたことから、「田植地藏尊」の伝説があります。境内には、樹齢400年のしだれ桜があります。



建光寺

福德山地福院建光寺と称し、川越市内の天台宗仙波中院の末寺です。本尊に阿彌陀如来像を安置しています。境内の地藏堂には、地藏菩薩像を安置しています。毎年8月23日が縁日で近在の人々で賑わいます。

② 稲野辺神社



薬師堂

元は熊野神社の別当寺で、真言宗観音寺と称していましたが、明治初年の神仏分離によって廃寺となり、以後は、薬師堂となりました。



四本木の板石塔婆 この板石塔婆は主尊(しゅそん)に阿彌陀如来の種子(しゅじ)が刻まれ、正和3年(1314年)銘がみられます。高さ266センチメートル幅67センチメートルで市内最大です。日高市指定文化財。



高麗家住宅

高麗家は高麗神社の神職を代々務めてきた旧家で、この住宅は慶長年間(1596~1615)の建築と伝えられています。東日本の民家の中では古い形を遺している極めて重要な例とされ、昭和46年(1971)6月に国指定重要文化財に指定されました。

③ 高麗神社



聖天院からの遠望



聖天院

真言宗高麗山聖天院勝楽寺は、高句麗から渡来した高麗王若光の菩提寺として、若光に従っていた侍僧の勝楽上人が、若光の冥福を祈るためにその念持仏だった聖天歡喜仏を本尊とする寺院を建立しようと発願、弟子の聖雲(若光の第三子)らが、勝楽の遺志を受け継ぎ一寺を建立しました。聖天歡喜仏を本尊として祀ったことから、聖天院の名で広く知られています。その後開山以来の法相宗を真言宗に改め、天正8年(1580)に本尊を不動明王としました。



高麗王廟

日高市指定文化財。



高麗川



東光寺

真言宗天王山東光寺。本尊阿彌陀如来。



あぐれっしゅ日高中央

J A いるま野直営の農産物直売所。地元の野菜や切り花の販売や、まんじゅう・ジェラードなども販売。日高市まちかど観光案内所にもなっています。8時30分~17時、水曜日定休(祭日を除く)。



正福寺

真言宗医王山薬王院正福寺。本尊十一面観音。高麗坂東三十三観音霊場の第三十三番札所になっています。



西光寺

真言宗法護山地蔵院西光寺。本尊地藏菩薩。明治元年、飯能戦争の際には、松平周防守の陣地となりました。



JR高麗川駅

⑤ 高麗川神社

① 熊野神社

④ 野々宮神社

(高麗神社~高麗川駅近道)1.8km

① 熊野神社 (くまのじんじゃ) 日高市新堀 387

祭神は、伊弉那美命 (いざなみのみこと)・速玉男命 (はやたまおのみこと)・事解男命 (ことさかのおのみこと) の熊野三神がまつられています。当地は、紀州熊野から来た新堀家によって開発されたことに因んで新堀となったと伝えられ、当社は、新堀家の氏神として創建されたと伝えられています。



② 稲野辺神社 (いなべじんじゃ) 日高市新堀 591

祭神は、建御名方命 (たけみなかたのみこと)。当初は、「諏訪大明神」と称して、新堀新田に鎮座していましたが、正慶2年(1333)に新田義貞が鎌倉幕府攻撃の折、当社の社前で休んだところ、軍馬が大いにいななき、兵達の勢いを盛んにしたことから、「嘶明神 (いななきみょうじん)」と呼ばれるようになりましたが、いつしか「いななき」が訛って「いなべ」と称するようになったと伝えられています。なお、元の鎮座地が集落から離れていたため、宝暦11年(1761)に別當の建光寺や村民の努力により現在地に遷されました。



③ 高麗神社 (こまじんじゃ) 日高市新堀 833

祭神は、高麗王若光 (こまのこきしじゃっこう)・猿田彦命 (さるたひこのみこと)・武内宿禰 (たけのうちのみこと)。かつて朝鮮半島北部に栄えた高句麗からの渡来人若光は、『日本書紀』天智天皇称制5年(666年)10月高句麗から派遣された使節として来朝し、『続日本紀』文武天皇大宝3年(703年)に「従五位下高麗若光に王の姓を賜う」と記されています。若光は元正天皇霊龜2年(716年)武蔵国に新設された高麗郡の首長として当地に赴任し、駿河(静岡)甲斐(山梨)相模(神奈川)上総・下総(千葉)常陸(茨城)下野(栃木)の各地から移り住んだ高句麗人1799人とともに当地の開拓に当たりました。若光が当地で没した後、高麗郡民はその徳を偲び、御霊を「高麗明神」としてまつり、祀職は代々高麗家が継承し、現在の宮司で60代を数えます。社蔵の「大般若経」456巻は国指定重要文化財、また、本殿は県指定文化財。「高麗家系図」及び10月19日に行われる高麗神社の獅子舞は日高市指定民俗文化財。



④ 野々宮神社 (ののみやじんじゃ) 日高市野々宮 146

祭神は、天照大神 (あまてらすおおみかみ)・瓊々杵尊 (ににぎのみこと)・猿田彦命 (さるたひこのみこと)・倭姫命 (やまとひめのみこと)。当社の代々の社家であった野々宮家は、日向国から来住したと伝え、また、神武天皇の東征に従い、日向国より大和に入り、やがて朝命により兄弟3名が東国に派遣され、当地(高麗)、入間、足立の3箇所に居を構えて野々宮神社を祀り、土地の経営にあたったとされる。社記には、「四十二代文武天皇の大宝3年(703)社殿修築」の記事があります。10月9日に行われる「初九日の獅子」と呼ばれる獅子舞と、天保2年(1831年)、江戸相撲歳寄行司兼木村庄之助正武により「土俵故実作法」にのっとって作られた野々宮神社奉納相撲場は、日高市指定民俗文化財。



⑤ 高麗川神社 (こまがわじんじゃ) 日高市上鹿山 170

祭神は、日本武尊 (やまとたけるのみこと)・橘姫命 (たちばなひめのみこと)。当初は「八剣社 (やつぎしや)」と称し、上鹿山の鎮守でした。創建は、日本武尊が東征の折に当地に立ち寄ったことに因んで、後世、猿田村 (やえんだむら) の人が尊を讃えるために建立したとされる。明治42年(1909)高麗川村地内の神社を当社に合祀し、村の総鎮守としたのを機に「高麗川神社」と改称しました。境内中央にある御神木のタブノキは、一本の木が二股に分かれたもので、樹齢は約300年。8月14・15日の八坂神社の祇園祭の山車で演奏される祭り囃子は、日高市指定無形民俗文化財。

